

GINGA REPORT 401

No. 100
2023.9

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和5年9月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

9月の星空

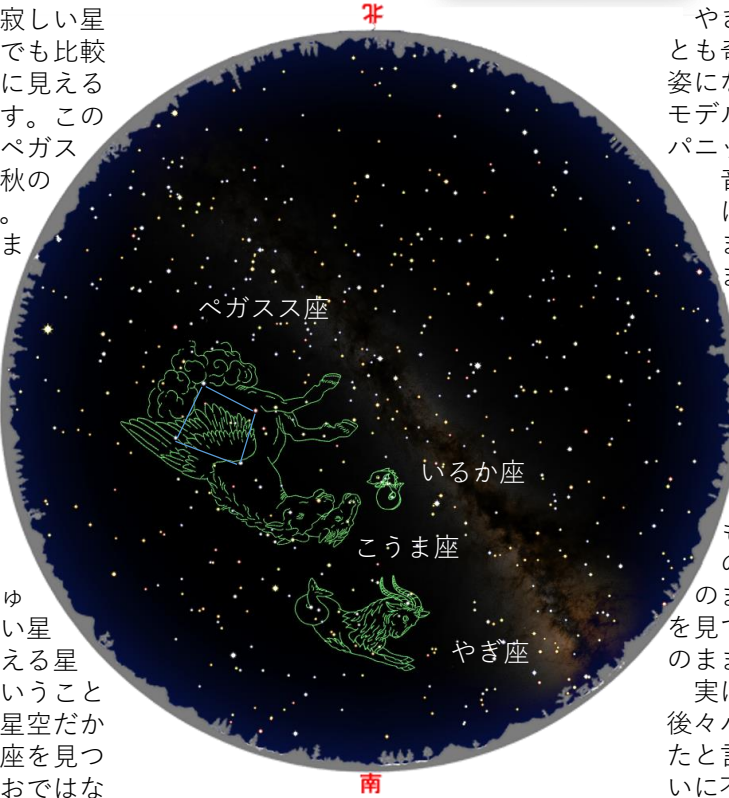
星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

ひっそり輝くこうま座

秋の空は明るい星が少なく寂しい星座が多いのですが、そんな中でも比較的目につくのは、空の中ほどに見える大きな四辺形のペガサス座です。この四辺形は秋の大四辺形とか、ペガサスの四辺形と呼ばれており、秋の星座のシンボリックな存在です。

ペガサス座の隣には、こうま座があります。お世辞にも探しやすいとは言えない星座ですが、それは星が暗いからであり、決して位置が見つげばいいわけではありません。天馬ペガサスの鼻面と、いるか座に挟まれた辺りを目を凝らしてみると、少し変形した四辺形が見つかります。それがこうま座です。

こうま座は全天でみなみじゅうじ座に次いで2番目に小さい星座です。つまり、日本から見える星座としては最も小さい星座ということになります。星の少ない秋の星空だからこそ、こんな小さなこうま座を見つけられたときの喜びはひとしおではないでしょうか。



9月15日21時の星図

化けそこなった牧神パン

やぎ座は頭はやぎ、尾は魚という何とも奇妙な姿で描かれています。この姿になってしまった理由に、やぎ座のモデルとなった神、牧神パンを襲ったパニックがありました。

音楽や踊りが得意だった牧神パンは、ある時ギリシャの神々が集まって開いた大酒宴で活躍していました。ところが突然、テュフォンという怪物が襲ってきたため、神々たちは色んな動物の姿に変身して逃げ出しました。踊りに夢中だったパンも、得意のやぎに変身して駆け出します。そのまま魚の姿に変えて川に逃げ込もうとしましたが、あまりにも慌ててしまい、下半身だけが魚の姿に変わり、上半身はやぎの姿のままになってしまいました。これを見ていた大神ゼウスは大笑いし、そのままパンを星座にしたそうです。

実はパン (Pan) のこの慌てようが後々パニック (Panic) の語源となったと言われていています。パンとしては大いに不本意な姿で天に上げられ、可哀そうですね。

今月の天文トピック

アンタレス食

アンタレス食とは、月がアンタレスの上を通り過ぎ、一時的にアンタレスを隠す現象です。今回のアンタレス食は、9月21日に日本全国で観察することができますが、起こる時刻は場所によって異なります。アンタレスが月の背後から姿を現す「出現」の様子は、日の入り後の空で18時30分過ぎに観察することができます。

また、アンタレスは月の光っている方の縁(明縁)から姿を現すため、予報時刻の少し前から観察を始めると出現の瞬間を捉えることができるかもしれません。アンタレスの出現は肉眼でも見ることができそうですが、双眼鏡を用いると、出現の様子がより分かりやすくなります。

中秋の名月コンサート

開館30周年記念

「中秋の名月コンサート」ピアノ尺八INFINITY

日時 9月30日(土)18:20~20:00

場所 5階 GINGA PORT401

料金 一席 1,200円

定員 140人(自由席)

8月30日から1階総合受付で販売。

※館内での飲食、館内への生花の持ち込みはできません。



博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

場所：博物館前市民公園



◇9月23日(土・祝) 18:00~19:30 「月・土星を見よう」

◇9月29日(金) 19:00~20:30 「中秋の名月を見よう」

編集後記

夏の星座もそろそろ見納めになってくると思うと何だか寂しいですね。ただ、だんだんと澄んでいく秋の空へのワクワクも感じられる時期です。

秋の夜空に輝くペガサスの四辺形は大空の天窓と呼ばれています。皆さんの秋の星探しの窓口になってくれるかもしれません。また、今月29日、中秋の名月は満月です。お天気に恵まれ、満月を観察できたら良いですね。

9月の月

7日  下弦

15日  新月

23日  上弦

29日  満月

※当日受付・参加無料です。
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)